

C-22 婦人服原型設計のための基礎的研究 —ローラー示数による体型分類—
青山学院女短大 磯谷藤枝 都立玄川短大 O原田隆子

目的 私共はいくつかの着用実験を通して、体型別に衣服原型を設計することが必要であることを経験している。今回は体型別原型の作図法設定と意図して、詳細な身体計測を行ない、2・3の考察を試みたので報告する。

方法 資料は18, 19歳の女子100名、計測項目は25項目であるが、今回はそのうちの胸部原型の設計に関係の深い25項目である。まず資料のローラー示数を求め、胸囲・頸付根囲・腕付根囲・背肩幅など25項目とローラー示数との相関を求めた。次に相関係数が0.4以上の項目をとりあげ、ローラー示数の平均値・標準偏差によつて、これらを3つのグループ($\bar{x} - 0.5\sigma$ 以下, $\bar{x} \pm 0.5\sigma$, $\bar{x} + 0.5\sigma$ 以上)に分類し、一元配置法による分散分析を行なった。

結果 (1) ローラー示数と各項目の相関は、周径・幅径項目はほとんどの項目で $r = 0.5$ 以上みられたが、長径項目のうち背丈・胸部後丈・前中心丈との間には、相関はほとんどみられない。

(2) 分散分析をした結果、周径・幅径項目では、ほとんどの項目で3つのグループの間に、1%水準で有意な差がみとめられ、長径項目では、「N. P. - B. P.」、「頸椎高-乳頭高」、「腕付根の深さ」など、乳頭位より上部の値にグループによる差異が明確にみとめられた。寄与率については、胸囲・胴囲に約50%、胸部矢状径・胸部横径・背幅・腕付根幅に30%前後が、頸付根前後径でも約20%の寄与率がみとめられた。